



第11号
H26年8月22日

発行 結城地域農業改良普及センター
TEL 0296-48-0184 FAX 0296-48-2682
HP <http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/noucenter/fukyu/yuki/>
<http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/nourinjinmu/kensei/youki/index.htm>

トマトのハウス内環境制御に関する講習会を開催



光、湿度、風、CO₂など)を統合的に制御するオランダ型の栽培技術の導入により、単位面積あたりの生産性向上が図られています。

今回の講習会では、資材メーカーの(株)誠和から、ハウス内環境測定装置「プロファイnder」を用いたハウス内環境制御と環境制御時の基礎概念について講演して頂いたほか、専門技術指導員および普及センターから、県内外の環境制御の取組み事例などを報告しました。

参加した生産者の皆様からは「環境制御についてもっと詳しく知りたい。」との意見が多く、増収技術への関心の高さが伺われました。

今後も普及センターでは、産地の振興を支援していきます。ご不明点・ご要望等がございましたら、普及センターまでお問い合わせください。

7月7日、普及センターで、トマトのハウス内環境制御に関する講習会を開催し、管内のトマト生産農家およびJA・市町関係者など22名が参加しました。

近年、国内先進産地では、高軒高ハウスにおける長期どりや、植物の生育に必要な環境因子(温度、

管内の4Hクラブが夏期プロジェクトを実施



《結城市農村青少年クラブ》

「トウモロコシ「夏祭り」の注文販売とアンケートによる消費者ニーズの把握」を行いました。

結城市内の幼稚園や学校、事業所などを中心に、全員と一緒に栽培したトウモロコシ約6400本を受注販売し、クラブ員自ら届けました。消費者アンケートでは、「今年も楽しみにしていた!」「とても美味しかった。来年も楽しみにしている。」など感想や応援を多数頂きました。頂いたご意見は「消費者に喜ばれる・売れる農産物づくり」の参考として、次年度の活動に反映させていく予定です。



《鬼怒4Hクラブ》

全員でトウモロコシを栽培し、注文販売と農協への出荷を行いました。暑い日が続き、予定よりも収穫日が早まりましたが、甘く実がつまったトウモロコシが収穫できました。同時に実施したアンケートでは、「年々おいしくなっている。」「これからも応援しています。」等の感想や励ましを頂きました。

また、八千代中央幼稚園の園児を畑へ招待し、収穫体験も実施しました。園児たちは、クラブ員から収穫の仕方を教わりながら、夢中でトウモロコシをもぎ取っていました。

結城地域女性農業士会経営研修会を開催

7月1日、結城地域女性農業士会では経営研修会を開催しました。9名の会員が参加し、常総市で梨栽培を行っている会員2名のほ場見学を行いました。

参加者の多くが野菜農家でしたが、「摘果した実は加工して食べられないのか?」、「棚が低く、作業が大変そうだ」等、梨栽培について活発に意見交換が行われました。収穫前の小さな実がついている状態を見ることがあまりないため、会員らは興味深く観察していました。また、梨ジャムの加工を行っている会員の加工場も見学しました。

研修の最後には情報交換会が行われ、親睦も深まり有意義な研修会となりました。



麦湿害軽減に向けた取組み

普及センターでは、管内の麦生産で問題となる湿害を軽減するため、2つの湿害対策技術（籾殻充填補助暗渠および作溝同時播種）の有用性を実証しています。

実証圃の調査結果から、湿害対策技術を導入していない区に比べて、籾殻充填補助暗渠は約

17%、作溝同時播種は約11%、収量が増大しました（図1）。この理由として、湿害対策を講じると、降雨後の排水が早く、適正な水分を維持しやすくなるためと考えられます（図2）。

このように増収効果が認められた技術を、皆さんも導入してみませんか。

《導入した湿害対策技術》

- ①籾殻充填補助暗渠：専用の作業機で弾丸暗渠を掘り、そこに籾殻を充填する技術です。額縁明渠とつなげることで、より一層排水性が向上します。
- ②作溝同時播種：播種機に作溝ディスクと成形板を装着し、施肥・播種と同時に播種機の幅毎に溝を掘り、小明渠を設置する方法で、新たな作業工程を必要とせず排水性が向上するメリットがあります。

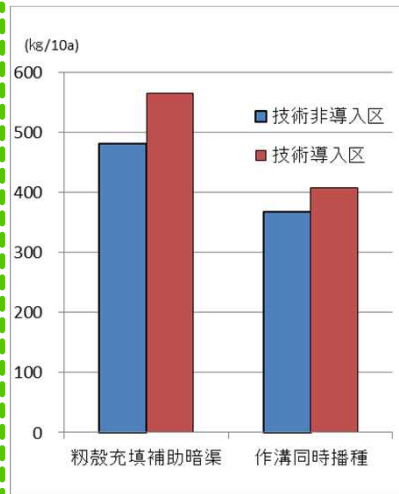


図1. 湿害対策の有無による収量の比較 (品種：小麦「さとのそら」)

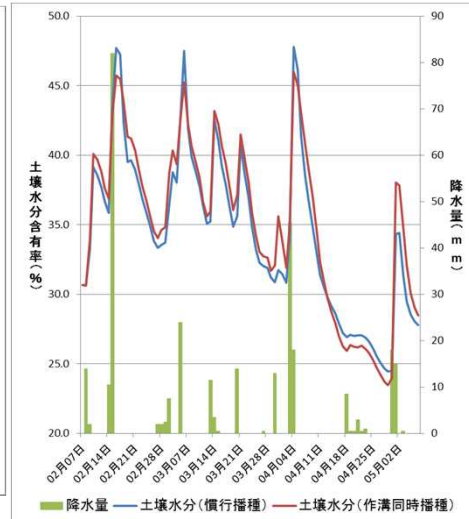


図2. 降水量と土壌水分含有率の関係

病害虫ノート ハスモンヨトウ なんでも食べる食いしん坊害虫

幼虫は広食性で、野菜類、マメ科畑作物、牧草、花き類など多くの作物を加害します。ふ化幼虫は集団で葉裏から表皮を残すように食べ、中齢以上になると幼虫は分散し、葉脈や葉柄を残して暴食します。

幼虫の齢期が進むほど、薬剤が効きにくい傾向があるため、若齢幼虫が集団でいる発生初期の防除が重要です。若齢幼虫によるかすり状の被害葉の発生を認めたら早期に防除を行いましょう。



★編集者より★ 普及センターの花壇に植えたズッキーニを収穫しました。残念ながら豊作になりませんでした。ピクルスや、豚肉と味噌炒めにしたりしておいしく食べられました。（後藤）